

<5班> 次代を担うグローバル人材の育成

| 課題 | だれが | なにをする | 備考 |
|------------------|--------|--|---|
| ①情報発信・PR | | | |
| PRについて | 県 | 留学のメリットとして、就職の斡旋をして欲しい。 | 留学をする事に関するメリットをあまり感じられない。 |
| PRについて | 県 | 親向けの情報発信 | 子どもを送り出すにあたり、不安が多い。 |
| 奨学金について | 県 | 保護者への説明の機会を増やす。 | 100%奨学金でまかなえないのであれば、親の協力がどうしても必要になってくる。 |
| PR不足 | 県 | 留学に対するサイトの内容を充実させる。 | 留学をしたいと思った学生が、情報を入手しやすくするため。 |
| PR不足 | 県 | 高校生や中学生に対して、留学の体験談を話しに行く。 | 留学に生きたいと思う人を増やすため。 |
| 学生に対する情報（サイト等）不足 | 県 | サイトの更新をして、検索の上位に出るようにする。 | 下の方に埋もれてしまうと、検索しても探しにくいため。 |
| 日本人学生へのPR不足 | 県 | 留学情報一覧のようなサイトを製作（または依頼） | 高校生、大学生が気軽に留学 |
| 日本人学生へのPR不足 | 民間企業 | サイト制作 | サイト制作が得な会社に頼めば、誰にとっても分かりやすいサイトが作れるのでは。 |
| 日本人学生へのPR不足 | 大学 | 情報提供 | 大学ごとに特色があるはずなので、そこをPRすれば、高校生にも刺さるのでは。 |
| 子どもの海外経験・教育 | 県 | 留学経験者（支援対象者）のモニタリング（キャリア・地域貢献しているか） | |
| 子どもの海外経験・教育 | 県 | コンソーシアム等のPR。SEO、WEBマーケティング、ツイッターのフォロワー数をまずは1万人。 | |
| PR不足 | 県 | ふじのくに海外留学応援フェアのPR不足。 | 高校、大学へのチラシ配布不足 |
| PR不足 | 大学 | 留學生活の情報発信不足 | 相談内容の共有化不足 |
| PR不足 | マスコミ | アルバイト、就労、生活苦の相談を取り上げていない | 個人情報に配慮、情報共有し、解決策を出す |
| PR不足 | 県 | 日本に留学しようと考えている外国人に向けて、静岡の魅力をPRするような動画を作り、YouTubeなどにUPする。 | 外国人が日本の中で、静岡を選ぶ理由が欲しい。 |
| PR不足 | 県・県内大学 | Webページ表紙の軽量化で検索しやすくする。 | Wi-Fiでない環境で見やすくする。 |
| 情報発信方法 | 県 | 情報の交通整理 | 情報が多すぎるのでポイントをまとめたチャートを作ったりする |
| 情報発信方法 | 学校 | 情報を受ける方法 | 県の提示を提供してもらう |
| PR不足 | 県 | 必要時に情報を拾えるようにする | ホームページに限らず、様々な方法で広報をする。 |
| PR不足 | 学校 | OG・OB訪問 | 留学全体についての説明。 |
| 留学に関する県民の認識 | 県 | 誰でも見れる | 県のホームページの充実 |

| 課題 | だれが | なにをする | 備考 |
|---------------------|-----------|---|---|
| 留学に関する県民の認識 | 学校 | 外国の人や文化に触れる | ①授業の中で海外に目が行くような取組 ②オンラインによる外国との交流を小学生から行っていく ③職業との留学の結び付け（例：パティシエ等はヨーロッパへの海外経験が多く、語学学習に繋がっていくのではないか） |
| 留学に関する県民の認識 | 企業 | 留学経験が生かせるような就職先の開拓 | 留学経験がどのようび企業で生かしているのかを周知するなど、広くPR等 |
| PR、県民の認識 | 県 | 適切な媒体で発信を行う。検索に引っかかるようにする。 | F a c e b o o kは誰も使わない。 |
| PR不足 | 県 | 留学情報をまとめたサイトをつくる | 留学したいと思ったとき、すぐに情報が見つかるべき。 |
| PR不足 | 自治体 | 各自自治体で行った、留学をした学生の体験代をまとめた広報を出す。 | 電子でも配信する。 |
| 留学したことによるメリットが分からない | 県 | 留学したことによって、自分のキャリアにどのように役立つかを明確に伝える。 | 留学した人の就職実績について明確に伝えるために、ホームページ、SNSを活用する。 |
| 留学したことによるメリットが分からない | 高校 | 留学することによるメリットや、将来にどのように役立つかを伝える。 | 留学の実体験や、どのような業種について、どのように役立ったのかを知ることができる講演会を行う。 |
| 情報発信、PR不足 | 県 | 情報サイトの質的向上 | これから情報メディアについて考えていく必要がある（IT時代）。 |
| 情報発信、PR不足 | 県 | ホームページの充実 | |
| PR不足 | 県 | 今のままでは不足しているため、ふじのくにグローバル人材育成基金の趣致やタグ付けを行う。 | |
| PR不足 | 県 | SNSを活用して、参加者の声や今までの実績、これからのイベントを発信する。 | |
| PR不足 | 県民 | 留学に関する認識をしっかり持ち、知ろうとする。 | |
| PR不足 | 県 | ホームページを利用する。 | アップデートを図る。 |
| 1つの事項に対しての広がりが少ない | 県 | 1つ1つの事が、他とどうつながるか（つなげられるか）を考える。 | 詳しい資料がないが、バラバラに感じる。 |
| 1つの事項に対しての広がりが少ない | 奨学生・研修教職員 | 経験を伝える。 | 伝える方法が古い。 |
| 1つの事項に対しての広がりが少ない | | オンラインを有効に使う。 | オンライン交流は高校からではもったいない。 |

| 課題 | だれが | なにをする | 備考 |
|------------------------|-------|--|-----------------------------|
| ②外国人留学生の県内定着 | | | |
| 県内定着について | 県 | 留学生に対する支援を今まで以上に手厚くする。 | 静岡に残りたいと思うメリットを増やした方が良い。 |
| 県内定着の折り返いのつけ方 | 県 | 静岡に定着してもらうため、できるかぎりの対策をとる。就職支援。 | データを見えるようにするため。 |
| 県内定着の折り返いのつけ方 | 県民 | 県内定着にこだわりすぎない | 本人（留学生）の意思があるから。 |
| 外国人留学生のその後の活躍、県内定着 | 県 | そもそも留学が必要なのか。 | 県内就職や残留を高める。 |
| 外国人留学生のその後の活躍、県内定着 | 教育委員会 | 県内在留の魅力、他県との差別化 | サブカルチャー、賃金が高いメリットのPR |
| 外国人留学生のその後の活躍、県内定着 | 地域・企業 | 企業交流会を進める | グローバル人材の必要性がある。 |
| 外国人留学生の静岡在留率を高める | 県 | 「静岡」で働くことを条件に、奨学金の額を増やすなど | 産学官連携の活用 |
| 県内定着 | 県 | 外国人用の県内での求人サイトを作って、分かりやすくする。 | 就職をもっとしやすいようにする。 |
| 県内定着 | 県 | 地域内就職率向上 | 留学生のニーズを知る。 |
| 県内定着 | 県 | 留学生の情報提供を受ける。 | 地域定着率を把握する。 |
| 静岡県への残留率 | 県 | 県へ就職したいのかアンケートをとる。就職したいと希望した人が、本当に就職したのか調べる。 | |
| 中小企業が求めている人材 | 県 | 労働力として、中小企業が求める学生も奨励してほしい。 | |
| 優秀な人材、定着について不明確さが気になる。 | 県 | 何を求めているか、明確にする。 | 優秀の基準が不明。定着の統計が的を射ていないと感じる。 |
| 優秀な人材、定着について不明確さが気になる。 | 企業 | どのような人材を求めているのか、県に示す。 | 県は、求められている人材を把握できていないようだ。 |

| | 課題 | だれが | なにをする | 備考 |
|--------|----------------------------------|--------|---|--------------------------------------|
| ③金銭的支援 | | | | |
| | 奨学金について | 県 | 奨学金を出している企業と学生とのマッチング | 県で出せる奨学金に限界があるのなら、他に頼るしかない。 |
| | 奨学金が少ない | 県 | 企業に対して留学生が増えることで、地域によってどのようなメリットがあるかPRする。 | 企業からの寄附金を増やすため。 |
| | 奨学金の金額 | 県 | どこからお金を出すのか考える。企業との協力。 | 費用を増やす。 |
| | 奨学金の金額 | 県 | 1人当たりいくら出すのか考える。 | どの層（家族の留学経験の有無等）が受領するかによって、金額が変わるため。 |
| | 奨学金制度の拡充、民間との連携 | 県 | 優秀人材の発掘（海外・日本人） | ICT等の成長分野で活躍できる人材育成、地域貢献。 |
| | 奨学金制度の拡充、民間との連携 | 民間企業 | 柔軟な寄附金制度の設立（小口） | SDGs・CSRの視点。長期的目線。 |
| | 奨学金制度の拡充、民間との連携 | 個人・家庭 | 留学に対する理解。グローバル・多様化への課題意識。 | 就職、キャリアへのつながりの理解。 |
| | 留学応援奨学金を増やす | 県 | 県立大 | 税金支援しているため、チェックが必要 |
| | 留学応援奨学金を増やす | 企業 | スポンサー企業を募る、積極的に企業名を挙げる | 採用に有利になる |
| | 留学応援奨学金を増やす | 産学官一体化 | 財団を作り、支援・提供する | 産業政策のPR、動機アップにつながる。 |
| | 資金 | 県 | 適切な金額 | 金額が良いのか確認 |
| | 海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。 | 県 | 企業の協力をうまく仰ぐ。お金を出してもらえるような施策を実施。 | |
| | 海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。 | 企業 | 寄附や奨学金を出す（出すのは自由だが、声には耳を傾ける必要がある）。 | |
| | 海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。 | 学生（家庭） | お金を出してもらうためには、留学についての理解を深め、信徒湯に検討していく必要がある。 | |
| | 奨学金 | 大学 | 学部と企業が連携して、エレベーター制度をつくる。 | 国立は無理ではないか。 |
| | 奨学金 | 企業 | 企業が個別で奨学金を貸す。 | |
| | 費用について | 県 | 留学する際の奨学金を出している企業についてPRする。 | |
| | 費用について | 地元企業 | 留学したグローバル人材を育成するためにも奨学金制度をつくる。 | |
| | 奨学金 | 県 | 奨学金に制限をかける。 | 2～3年は県内に留まる。 |
| | 奨学金 | 県 | 企業及び大学の奨学金の情報を集める。 | コンソーシアムでまとめる。 |
| | 奨学金 | 県 | 国の奨学金制度の情報を集約化 | 関係者へPR |

| | 課題 | だれが | なにをする | 備考 |
|---------|------------------|-------|--|-------------------------------------|
| ④海外修学旅行 | | | | |
| | 教員、高校生の海外修学旅行 | 県 | 国際感覚を育てる | 教育効果が図れる。 |
| | 子どもの海外経験・教育 | 県 | 修学旅行（30%→100%） | 海外の原体験を持つ柔軟性 |
| ⑤海外研修 | | | | |
| | 教員の海外研修 | 県 | 継続的に行う。 | |
| | 教員の海外研修 | 教員 | 海外研修経験を伝える。 | |
| | 海外研修について | 県 | 研修に行った先生に、各学校に行ってもらおう。 | 研修で培った知識の共有があまりできていないようなので、行った方が良い。 |
| | 海外研修の実施を増やす | 県 | 現在の課題を、海外研修を通じて解決する。 | I C T活用と並行してメリットを出していく |
| | 海外研修の実施を増やす | 教育委員会 | 目的をもって、研修する。農業雑学を増やす。 | 文化や芸術に触れることも大切。 |
| | 海外研修の実施を増やす | 企業 | コロナ前にて、使用先を決めずに提供してもらおう。 | 紐付きでも良いので、スポンサー企業を増やす。 |
| | 留学のハードルの高さ | 県 | 一週間ほどの短い留学体験ができるようなプランを考える。 | 短期間であれば、費用もそれほど高くはなく、海外を考える良い経験になる。 |
| | 高校職員の海外研修の認知について | 県 | 行ける人数は限られているため、行ったことのある人の話を広げるようにする。生徒に伝えられるように言う。 | |
| | 高校職員の海外研修の認知について | 教師 | 生徒や職員に対して研修の話をするようにして、留学や研修について知ってもらおう。 | |
| | 海外研修等の実施 | 県 | 必ず目的を持つ（技能向上） | 知っている人より、できる人を目標に。 |
| | 教職員の海外研修 | 県 | 県と他県とを比較して、県より他県の方が研修をしているようなら、研修を増やす必要があるのではないかな。 | |
| | 教職員の海外研修 | 県 | 海外研修を行った教員に他校にきてもらい、海外研修をした教育の存在を広く知らせる。 | |
| | 静岡県への残留率 | 県 | 県の予算でやっているものだから、目標値を設定して、その値になるようにアプローチしていく。 | |
| その他 | | | | |
| | 英語の語学 | 県 | 英語の触れる環境の提供 | イベント等の実施 |
| | 英語の語学 | 学校 | 接点を県から得る | イベントの参加 |
| | 留学のハードルを下げる | 教育 | 英語や外国語に対する苦手意識を植え付けない教育 | 検討事項の教員の負担。教員の海外研修。 |